

# 六月例会御案内

(平成二十三年)

## 時代を刷新する会

### ○御案内

六月九日(木) 正午～二時半 参議院議員会館地下一階・B101会議室 (第三〇一回)

講題 放射線物質による被害の実態と、あるべき対策!

解説 古川俊治先生(参議院議員、慶応義塾大学法科大学院・医学部外科両教授、弁護士)

さて、いま、国民の最大心配事は、福島原発事故です。三月十一日の大震災・大津波に伴い福島第一原発ですべての電源が失われ、その第一号機(三月十二日)、第三号機(三月十四日)で、水素爆発が起きて原子炉建屋が吹っ飛び、第四・第二号機(三月十五日)でも爆発が起き、国民もその写真を見て驚愕した。政府・東電は、それでも炉心部は大丈夫だと説明。その後、だんだんに損傷の酷さが公開され、ついに、外国からの指摘に従う形で、その被害は、チェルノブイリに匹敵するレベル7であることを認めた。そして、二ヶ月以上後の五月二十四日、東電・政府は大震災翌日から数日間に、燃料棒はじめ炉心溶融(メルトダウン)があったと発表した。それでは、福島県はじめかなりの地域の国民が放射線物質による被曝を受けていることになるのではないか、それが何時まで続くのか、それに、国民は怯えています。

そこで今回は、慶大医学部からオックスフォード大学大学院修了、カリフォルニア大学との医学研究に従事し医学博士号を持つ、異色の国会内専門家・古川先生に御解説いただきます。

(清原記)

□ ◎ 当日の会費 四千元(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきました)

御報告

去る五月二十日の月例会は、マグニチュード9.0という東日本大震災と、それに伴う大津波について、改めて検証・認識しておく必要があるとの意見から、特に巨大地震・大津波研究の権威である佐竹健治東京大学地震研究所・教授にお出でいただき、御解説をいただきました。佐竹先生は、この日のために特にパワーポイントとそのペーパー資料を駆使して、まず地面の揺れを震度で表し、その地面の揺れを引き起こす規模をM・マグニチュードで表すことを説明され、わが日本列島が、大陸から張り出たユーラシアプレートと、フィリピン海プレートと

太平洋プレートとアラスカから南下するアメリカプレートとの四つのプレート接触点に位置する世界でも珍しい地震環境にあること。太平洋プレートは百年で八センチ、フィリピン海プレートは百年で四センチ、ユーラシアプレートに沈み込んでいるため、その引き込まれた岩盤に歪みが蓄積されてそれが跳ね上がる現象であることを詳しく解説され、その予知は極めてむずかしいが、発生確率計算では、宮城沖では一七九三年以降、平均三十七年間隔でM7.5の地震が発生した。東海・東南海・南海地方では九〇～一五〇年間隔でM8クラスの地震が発生している。

津波については、震源近くで初期微動(P波)を観測機器が検知すると気象庁を経由して、自動的に緊急地震速報を発信する仕組みが出来ていたが、津波の観測機器は、九センチまで測れるが、今回は九センチを超え、その観測機器も津波に流されたため、どの位の高さの津波だったのかについては完全な記録が取れなかった等々、対策上も大層貴重な御解説で、勉強になりました。

▽ 当「時代を刷新する会」は、「何事も人類・国民のためになることには、時代を先取りして積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって設立されたシンクタンクです。晩年の岸元総理がそうであったように超党派・超派閥で、真に国を憂える有志により構成されています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長。第三代が櫻内義雄元衆議院議長。第四代・塩川正二郎元財務大臣は、一昨年七月、九十歳を機に辞任。現在は、江口一雄元衆議院議員が会長代行に就任している。理事長は、平成十四年から半田晴久が就任しております。毎月の月例会のほか、内部に、教育部会、医療福祉部会など八つの部会と、環境技術委員会、新エネルギー委員会などの委員会があり、これまでに、政府へ一三四本に及ぶ要請書・意見書を提出するなど、活発な活動を展開しております。

▼ お知り合いで、こうした志のある方をお誘い下さい。(年会費は一口一万円)  
事務局電話(03) 3272-4320 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、当事務局まで、御返信をいただきました。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

六月九日(木) 出・欠(いずれか〇)

参議院議員会館地下一階・B101会議室